

患者暴言の影響分析

自己肯定、再発防止を

五稜会

北区の五稜会病院（中島公博理事長、千丈雅徳院長・百九十三床）は、精神科急性期治療病棟（四十八床）の看護師を

対象に、患者から受けた暴言・暴力による心理的影響を調査。前向きな気持ちになるよう自己肯定を促す支援や、再発防止に取り組む必要性が浮かび上がった。

同病棟は統合失調症、うつ、躁うつ病などの急性症状の患者に対応。暴言や暴力を受けると「患者への陰性感情」の場合

は、その後のケアがネガティブになる一方、「気を心掛ける看護師は、ポジティブなケアに取り組み

分の関わり方が悪かった」と悩む看護師も少なくないため、精神的な負担の現状と支援のあり方を探った。

対象看護師二十二人のうち十七人が回答。「暴言や暴力を受けた、または目撃した」は十六人で、身体的暴力や器物破損目撃、言語的な暴力が挙げられた。

受けた際の感情が「自責的な感情」「恐怖感」「不安」「関わりが困難」「患者への陰性感情」の場合

周囲からどのようなサポートを受けたか

具体的な内容	サブカテゴリ	カテゴリ
「大丈夫」と声をかけられた	安心できる声かけ	自己肯定感の獲得
周囲のスタッフに声をかけられる	ケアの肯定	
「悪くないよ」と声をかけられる	辛さの受容	
「相手の問題だった」と客観的に言ってもらえた	体の心配	
同僚スタッフに一連の出来事を聞いてもらえた	患者を回避	再発防止への取り組み
病院へ行くかどうか体の心配をされた	患者へ内省の促し	
該当患者の対応時は他のスタッフと一緒に行動してもらう受け持ちを外してもらう	今後の対応、研修	
周囲のスタッフが、患者へ内省を促すよう働きかけた	主治医への働きかけ	
病状の一因であることを説明していた		
場面や対応についての振り返り		
上司が主治医にかけあい、治療方針の修正を働きかけた		

む傾向がうかがえた。暴言や暴力を受けた後、上司や同僚によるサポートを分析したところ、「安心できるような声掛け」「自分のケアの肯定」「辛さの受容」「体の心配」で自己肯定を促すパターンと、「患者を回避できる配慮」「患者への内省の促し」「主治医への働きかけ」で暴力防止につながる取り組みに分けられた。

看護師が望むサポートは、▽自己肯定が得られるメンタルサポート▽該当患者と距離のとれる業務調整▽暴力回避スキルを獲得できる学習の場の提供―の三点。第三十五回札幌市病院学会で発表した山北豊看護師は「病院全体でフォローすると、体験を前向きに捉えることができ、ケアの質向上につながる」と提言した。

改正看護師等人材確保促進法の概要

【ナースセンターの業務拡充】 現行の無料職業紹介事業に加え、「離職後、求職者になる前」の段階から支援をできるようにナースセンター業務規定を改正	離職後、復職するか否かを迷っている看護師等に対して、適切なタイミングで効果的なアプローチが可能になる
【ナースセンターの情報把握強化】 ナースセンターが効果的な支援を行えるよう看護師等に対して、離職した場合等にナースセンターへの住所、氏名、連絡先その他の情報等の「届出の努力義務」を規定	ナースセンターが、離職している看護師等の情報を効果的に把握することにより、離職した看護師等の潜在化を予防し、効果的な復職支援につなげることも可能になる
【支援体制の強化】 より身近な地域でナースセンターによる支援が受けられるよう、ナースセンターの業務を地域の医療機関等に委託することができる規定を整備	サテライト展開等が可能になり、利用にとって、より身近な地域で相談等のサービスが受けられるようになる

看護

訪問看護ステーション 管理者育成研修を開催

来月10、11日札幌で

日看協

日看協は、二十六年一度訪問看護ステーション管理者育成研修を三月十日、十一日に、厚別区のホテルエミシア札幌で開催する。

地域包括ケアシステムの構築、重度者・医療依存の高い利用対応、二十四時間三百六十五日の安心・安心な訪問看護サービス提供に加え、コンプレ

ライアンス、研修機会の確保、業務マニュアル整備、労務管理、事業展開ビジョン、リスクマネジメント、職員確保定着など、多様なニーズが求められる中、社会対応力を身につけるのが狙い。

人材開発コンサルタントの西村直哉氏を講師とし、ロールプレイングや事例検討、グループワー

休室に貼り出し、意識を高めた事前事後シート「正ナースセンター」を中